

令和4年3月31日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 宮崎市橘通東1丁目9番10号  
管理機関名 宮崎県教育委員会  
代表者名 教育長 黒木 淳一郎

令和3年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和3年4月1日（契約締結日）～令和4年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校  
学校長名 鬼束 雅史  
類型 グローカル型

3 研究開発名

学校を核とした「共学共創コミュニティ（GIAHS Co-Learning Community）」の形成

4 研究開発概要

GIAHS 地域ならではの価値を創造し、地域の未来を切り拓く地域人材（野性味あふれる地球市民）を育成するため、次の3点を軸とした研究開発に取り組む。

(ア) 地域との協働による「共学」の実現

5町村で構成されるフォレストピア構想（1986年、宮崎県）、ならびに世界農業遺産（2015年、国連食料農業機関）を基盤としたコンソーシアムを構築し、GIAHS 地域で既に取り組まれている諸活動を体系化する。（地域課題研究の協働・実践、GIAHS シンポジウム・中学生サミットの開催、GIAHS スタディーツアーの企画・運営等）

(イ) SGH 事業の成果に基づいた「共創」の実現

SGH 事業で培った地域課題研究をもとに、3学年では社会実践を伴った活動（マイプロジェクト）、4学年では対話から生まれる問いを構造化し、普遍的な探究に繋ぐための哲学的思考ワーク（Gokase-ToK）を新設した「総合的な探究の時間」を実施する。また、多様な人材との出会いを通して新たな価値観に気づき、自らの考えを深める機会として、海外フィールドワークや海外人材の受入れ（アジアの架け橋プロジェクト）、英語ディスカッションなど、地域課題研究と明確な関連性を持つ先進的な外国語教育に取り組む。

(ウ) 本事業終了後を見据えた「自走的な仕組み」の実現

将来的に地域協働学習実施支援員として活躍できる地域人材やその資質を有する教職員を養成するための教育プログラム（みやざき教育魅力化コーディネーター養成コース）を開発する。さらに、学校の取組を宮崎県教育委員会及び高千穂郷・椎葉山地域活性化協議会（以下、GIAHS 協議会）の支援によってさらに強化できるようにする。

5 学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目      開設している      ・      開設していない
- ・教育課程の特例の活用      活用している      ・      活用していない

6 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
ウォーカー・ロイド	宮崎国際大学 学部長補佐	学識経験者（国際連携）
甲斐 久博	九州保健福祉大学薬学部 准教授	学識経験者（課題研究）
吉村 優	446株式会社 代表取締役	地元起業家（地域連携）
小川 裕介	株式会社新海屋 代表取締役	地元企業家（地域連携）
	県農政水産部農政企画課 中山間農業振興室 室長	関係行政機関の職員

7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者
高千穂郷・椎葉山地域活性化協議会	甲斐 宗之
宮崎県立高千穂高校	佐伯 浩美
宮崎大学 国際連携センター長	村上 啓介

8 カリキュラム開発専門家，海外交流アドバイザー，地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発専門家			
海外交流アドバイザー	田阪真之介	グローバルアカデミー理事	謝金（時間給）
地域協働学習支援員	田崎 友教	高千穂町役場・財政課 総合政策課	役場職員

9 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程（2021年4月1日～2022年3月31日）											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンソーシアム				企画会							企画会	
カリキュラム アドバイザー	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	協議				協議				協議		企画会	協議
地域協働学習 実施支援員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	協議				協議		協議	協議		協議	企画会	協議

運営指導委員会	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
				○					○			
MSEC 協議会	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		協議会	協議会	発表会			協議会			協議会		

## (2) 実績の説明

### ①管理機関（コンソーシアム含む）における主体的な取組について

#### (ア) 県教育委員会

- 「コンソーシアム企画運営会議」を実施し、GIAHS 協議会（各町村の教育委員会含む）等、コンソーシアムを構成する各団体の代表者が出会し、指定校の取組への支援、及び GIAHS 地域への還元等を協議した。
- 地域課題研究における指導力に優れた指導教諭の配置を引き続き行った。
- 継続的な取組を行うため、加配（1名）を行った。
- グローバル型における研究の深化、及び海外研修の円滑な実施のため、フィリピン出身で社会学を専門とする ALT を配置した。
- 地域協働事業をはじめとする SSH、SGH 及び SPH 指定校の研究開発を通じて、蓄積された探究型学習のノウハウを県内の高校へ普及すると同時に SDGs の実現を目指す意識の醸成のための組織「みやざき SDGs 教育コンソーシアム（通称 MSEC）」を設置した。  
※MSEC とは、探究型学習を県内へ普及し、その学習を通して SDG's の実現に向けて、郷土を創造・貢献する人材の育成を目的とするコンソーシアムである。
- 「課題研究発表会」を開催し、指定校の取組を県内に普及する。（3月：オンライン）

#### (イ) MSEC 協議会

##### ○MSEC 協議会の構成員

「みやざき SDG's 教育コンソーシアム（MSEC）」加盟校 17校の担当者

- ・ SSH 指定校ならびに WWL 指定校における主担当者
- ・ 地域との協働による高等学校教育改革推進事業指定校における主担当者
- ・ 科学技術人材育成校における SSH 申請準備主担当者又は課題研究主担当者
- ・ 各校課題研究主担当者の参加希望者

- 年4回の協議会を実施し、県内への探究活動の普及に向けた取組について協議した。
- 課題研究の成果を共有する場として、7月に「MSEC フォーラム」を開催した。

※当初は集合型ポスターセッションを予定していたが、県内でのコロナ感染拡大のため、オンライン発表型に変更した。

#### (ウ) GIAHS 協議会

- 11月に石川県能登で開催された「世界農業遺産国際会議 2021」のユースセッション参加に向けて、本校生徒の選考や発表内容の協議を行った。
- 3月に実施された世界農業遺産高千穂郷・椎葉山地域の魅力をオンライン配信するイベントの内容や参加生徒の選考についての協議を行った。
- SNS の活用及び広報誌への記事の掲載

### ②事業終了後の自走を見据えた取組について

令和元年度からの県新規事業「県立学校を核としたまち・ひと・しごと創生推進事業」の

取組と連動させて、継続できるよう計画した。また、次年度に関しても GIAHS 協議会の取組と連動させて、これまでの取組を継続できるよう協議を続けている。

- ③高等学校と地域の協働による取組に関する協定文書等の締結状況について  
みやざきグローバル人材育成協議会、総合地球環境学研究所

<補足資料>

ア) コンソーシアムについて

①コンソーシアムの構成団体

高千穂郷椎葉山地域活性化協議会・人材育成プロジェクトチーム	5町村	担当者1名
五ヶ瀬自然学校	理事長	杉田 英治
五ヶ瀬自然エネルギー社中	代表	石井 勇
宮崎大学・世界農業遺産研究グループ	准教授	竹下 伸一
宮崎県立高千穂高等学校（地域協働連携校）	校長	佐伯 浩美

コンソーシアム GIAHS 協議会人材育成プロジェクトチーム	各担当者（5名）
五ヶ瀬自然学校	理事長 杉田 英治
五ヶ瀬自然エネルギー社中	代表 石井 勇
宮崎大学 GIAHS 研究グループ研究員	准教授 竹下 伸一
高千穂高校（地域協働連携校）	教諭 吉田 弘志
地域協働学習実施支援員 高千穂町財政課総合政策課	主査 田崎 友教
海外交流アドバイザー グローカルアカデミー	理事 田阪 真之介

②活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和3年 7月 16日	第1回企画運営委員会（オフライン実施） ・コンソーシアム構成員に対して、令和2年度事業報告ならびに令和3年度事業計画を説明した ・本事業の目標であったFAO訪問事業の代替案である「FAOオンライン研修」にむけて、コンソーシアム構成員の目線から中高生へGIAHSの魅力伝えることを目的として、「中高生に伝えたい高千穂郷・椎葉山地域の魅力的なヒト・モノ・コト」について講義ならびにワークショップを実施した。
令和4年 2月 18日	第2回企画運営委員会（オンライン実施） ・コンソーシアム構成員に対して、令和3年度事業報告ならびに生徒による「世界農業遺産国際会議2021」のユースセッション参加報告を実施した

イ) カリキュラム開発等専門家又は海外交流アドバイザーについて

- ①指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付けについて

グローバルアカデミー 代表 田阪 真之介  
 (都度依頼し謝礼支払い) 年3回来校 ※ただし、リモート会議を含む

②活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和3年 8月20日 ※リモート会議	担当教員ならびに地域協働学習実施支援員と協議 ・FAO オンライン訪問プロジェクトに関する打ち合わせ、意見交換会
令和4年 2月18日 ※リモート会議	第2回コンソーシアム企画委員会出席 ・今年度の事業内容や生徒発表への指導助言
令和4年 3月11日	本校の調査研究発表会へ審査員として出席 ・発表内容に関する指導・助言 ・次年度以降の海外フィールドワークへの指導・助言

③海外フィールドワークの設計への関わりについて

一昨年12月にフィリピン(イフガオ州)で海外フィールドワークを実施し、今年度も実施予定であったが、コロナウイルス感染拡大の状況により今年度も中止となった。また、今年度から計画をしていた、グローバル探究研修(3年)についても、コロナウイルス感染拡大の状況により中止となった。昨年度、3年次に国外フィールドワーク(台湾)、4年次にオンライン研修(海外大学卒業生との英語ディスカッション)、5年次に国内フィールドワークの3カ年プログラムに変更したが、現在のような状況が継続されることを予測した上での海外フィールドワーク設計の見直しを余儀なくされた1年となった。次年度以降に関しては、3年次の国外フィールドワーク(台湾)の実施を検討しつつも、国内で海外フィールドワークと同等の研修やオンラインフィールドワークの実施を視野にいれ、検討していきたい。

ウ) 地域協働学習実施支援員について

①指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付けについて

高千穂町役場・財政課 総合政策室 田崎 友教  
 (都度依頼し謝金なし) 年8回参画 ※ただし、リモート会議を含む

②実施日程・実施内容

日程	内容
令和3年 4月30日 ※リモート	担当教員ならびに地域協働学習実施支援員と協働事業 ・コンソーシアム構成員(椎葉中学校)との協働事業を実施した。
令和3年 8月20日 ※リモート会議	担当教員ならびに地域協働学習実施支援員と協議 ・FAO オンライン訪問プロジェクトに関する打ち合わせ、意見交換会
令和3年 9月14日 ※リモート会議	担当教員ならびに地域協働学習実施支援員と協議 ・「世界農業遺産国際会議2021」に関する打ち合わせ、意見交換会

令和3年10月5日	担当教員ならびに地域協働学習実施支援員と協働 ・FAO職員と特命全権大使（コロンビア），臨時代理大使（ペルー）来校対応協議 ・「世界農業遺産国際会議2021」参加応募生徒の選考および面接を実施
令和3年10月26日	担当教員ならびに地域協働学習実施支援員と協働 ・FAO職員と特命全権大使（コロンビア），臨時代理大使（ペルー）来校対応
令和3年11月26・27日	担当教員ならびに地域協働学習実施支援員と協働 ・「世界農業遺産国際会議2021」に参加 ・生徒発表内容への指導・助言
令和4年3月11日	本校の調査研究発表会へ審査員として出席 ・発表内容に関する指導・助言 ・次年度以降の海外フィールドワークへの指導・助言
令和4年3月19日	担当教員ならびに地域協働学習実施支援員と協働 ・高千穂郷・椎葉山地域オンラインイベント（「GIAHSトーク」）を実施

③地域協働学習の設計への関わりについて、本校が実施する総合的な探究の時間だけでなく、「椎葉中学校との協働事業」「世界農業遺産国際会議2021」など、コンソーシアム内で実施する諸活動について、田崎氏と本校が協働して設計・運営に取り組んだ。中でも、今年度は、「世界農業遺産国際会議2021」のユースセッション参加に向けて大変御尽力いただき、生徒たちの探究の場作りを支援していただいた。

#### エ) 運営指導委員会について

①運営指導委員会の構成員（6 運営指導委員会の体制 を参照）

#### ②活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和3年7月9日	第1回運営指導委員会 ・令和2年度の事業報告ならびに指導助言 ・ワークショップ「10年後の学びの森（本校）について」を実施
令和3年12月10日	第2回運営指導委員会 ・令和3年度の事業成果を報告ならびに指導助言 ・生徒による探究ワークショップ「地域との協働による高等学校教育改革推進事業により身についた力」を参観し、次年度以降の取組に関する協議を実施

### 10 研究開発の実績

#### (1) 実施日程

業務項目	実施期間（2021年4月1日～2022年3月31日）											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
グローバル フォレストピア探究	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
GIAHS シンポジウム					打合せ	打合せ		実施	打合せ			打合せ
GIAHS スタディーツアー		打合せ		中止								
グローバル 探究研修	打合せ	企画会		打合せ				企画会				中止
海外 フィールドワーク		企画会		打合せ					中止			

## （2）実績の説明

### 【2021年度の重点項目】

地域との協働による探究的な学びの自走的な仕組みづくり

### 【実施内容】

#### ① 総合的な探究の時間の拡がり

・5学年において、地域課題研究を地域NPOや五ヶ瀬町特産センター職員、五ヶ瀬町役場等と協働し、実践的な探究活動をする生徒が多くみられた。その背景として、コロナウィルス感染拡大の影響がある。校外における実践活動が制限されたことで、これまで以上に自らが生活する地域に目を向け、コロナ渦だからこそ自らの足で仮説を検証できるフィールドでの実践探究を実施する生徒が増加していた。

・6学年において、地域課題研究の成果を日本語論文にまとめ、コンソーシアム構成員との日本語・英語ディスカッションに取り組むことによって、探究的な学びを可視化することができた。

#### ② コロナ禍における海外フィールドワークの発展

・今年度計画をしていた3年次のグローバル探究研修を、コロナウィルス感染拡大の影響を受け、昨年度に引き続き中止せざるを得ない状況となった。しかしながら、生徒たちの海外フィールドワークの「越境」的な学びの機会を設定すべく、国内において代替案を模索した。具体的には、世界農業遺産である大分県の国東半島・宇佐地域、そして日本農業遺産である愛媛県の「愛媛・南予の柑橘農業システム」を研修し、愛媛県立三崎高校生とマイプロジェクト発表会を実施する案である。世界農業遺産「地域」、世界農業遺産と日本農業遺産の「認定」、中学生と高校生という「校種」を越境した研修プログラムを企画することができた。だが、この代替案においても、コロナウィルス感染拡大の影響を受け中止を余儀なくされたが、三崎高校生とマイプロジェクトオンライン発表会やそれぞれの地域を紹介するオンラインフィールドワークを実施することができた。

・GIAHS地域の高校生を選抜し、国連食糧農業機関、農林水産省、石川県が主催する「世界農業遺産世界会議2021」のユースセッションに本校生徒5名が参加することができた。ユースセッ

ョンでは、高千穂郷・椎葉山地域のユースだけでなく、能登 GIAHS のユースと世界農業遺産の価値について知り、それぞれの地域の魅力をプレゼンテーションしあうことで、世界農業遺産の価値だけではなく、自地域の新たな価値について発見することができた。また、ユースセッションでの対話内容を、FAO 職員や国連大学職員、特命全権大使等へ生徒自ら発信することで、自らが生活する高千穂郷・椎葉山地域への興味が高まっていた。

### ③ 指定終了後を見据えた自走的な仕組みづくり

・本校の卒業生を中心とした、「五ヶ瀬町政策提案コンテスト」実行委員会を地域 NPO（五ヶ瀬自然学校）と連携し立ち上げることができた。今後は、実行委員会と本校、そして地域 NPO が協働しながら、「五ヶ瀬町政策提案コンテスト」を「GIAHS 政策提案コンテスト」と規模を拡大することで、本校生徒だけでなく GIAHS 地域の生徒たちが、教育課程外においても主体的に地域課題解決に向けた活動に取り組むことができるよう、地域 NPO と協働しながら体制を整備していく。

・地域協働学習実施支援員の育成を目指す社会人向け教育プログラム（みやざき教育魅力化コーディネーター養成コース）を、今年度は、宮崎県教育委員会（上水陽一氏）、宮崎大学（矢田貝孝教授）、一般財団法人こゆ地域づくり推進機構（中山隆氏）に伴走サポーターとして御参加いただき、少人数制のゼミ単位での PBL を実践することができた。

## 1 1 目標の進捗状況、成果、評価

2021 年度の重点項目「地域との協働による探究的な学びの自走的な仕組みづくり」について、概ね順調に準備を進めることができていると感じている。「総合的な探究の時間の拡がり」に関して、具体的には、「コロナ禍における海外フィールドワークの発展」について、今年度は予定していたグローバル探究研修（台湾）、ならびに海外フィールドワーク（フィリピン）をコロナウイルス感染拡大の影響を受け、中止せざるをえなかったが、3 年生がマイプロジェクト成果発表会を愛媛県立三崎高校と、5 年生が探究活動の意見交換会を京都府立洛北高校とそれぞれオンラインで実施することができた。次年度以降も、コロナウイルス感染拡大の影響により、学年単位での海外渡航が困難な状況が続くことが予想される中で、国内代替案による「越境」的な学びを企画できたことは成果と言える。また「世界農業遺産世界会議 2021」のユースセッション、ならびにエクスカッションに本校生徒が参加し他地域の文化や価値観に触れることで、自地域の文化や価値を再認識することができた。国内ではあるが、海外フィールドワークの目的でもあった、多様な文化や価値に触れ、生徒個人の経験や価値を問い直す機会となったことは成果であった。しかしながら、生徒たちが実際に海外に赴き現地のリアルを感じる機会を設定できていないことは事実である。次年度以降は、今年度以上に海外交流アドバイザーと協働しながら海外フィールドワークの発展的な取組について熟考していきたい。最後に、「指定終了後を見据えた自走的な仕組みづくり」に関しては、「校内の仕組みづくり」「校外における仕組みづくり」について言及していく。まず、「校内の仕組みづくり」については、校内研修やグローバルフォレストピア探究検討委員会を活用することで、全職員が総合的な探究の時間の目的や意義について共有し、かつ総合的な探究の時間に携わることができる仕組みづくりができた。さらに「校外における仕組みづくり」については、本事業の 3 年間で、地域協働学習支援員・海外交流アドバイザーをはじめ、コンソーシアム構成員など多くの方々にご支援いただいたことで、GIAHS シンポジウムや「食べる通信」の刊行、English Day 等多くのプログラムを実施することができた。GIHAS シンポジウム等に関しては、今後は GIAHS 協議会や宮崎県農政企画課中山間農業振興室と協議し、次年度以



降も継続実施できることとなった。

事業全体として、コロナウィルス感染拡大の影響を受けた今年度においても上記の成果から、昨年度と同様、オンライン（対面・体験）とオフライン（リモート・情報発信）のそれぞれの強みを活かした「誰一人取り残さない新しい協働・探究様式」の実現を引き続き具現化することができたことは成果と言える。

<添付資料>目標設定シート

## 1 2 次年度以降の課題及び改善点

次年度以降の課題として、2点挙げられる。1点目は「総合的な探究の時間の拡がり」の可視化である。本事業3年間での拡がりをグローバルフォレストピア探究の時間のプログラムに組み込むことで、単発的なイベントにとどめることなく、継続的かつ体系的なプログラムへと昇華させることが課題として挙げられる。2点目は、地域協働学習実施支援員の育成を目指す社会人向け教育プログラム（みやざき教育魅力化コーディネーター養成コース）である。3カ年の実施プログラムを振り返り、内容の検討をしていくことで、将来的には宮崎県内で地域協働学習実施支援員として活躍できる人材の育成が可能なカリキュラムを作成し、将来的に宮崎県内で地域協働学習実施支援員として活躍できる人材の育成システムを教育関係機関と構築していくことが課題として挙げられる。以上2点を、今後の課題として探究していくことが、SGH事業から地域との協働による高等学校教育改革推進事業指定をいただいた本校のミッションであり、さらには、研究開発学校として設立した本校の理念を追求することになると感じている。

### 【担当者】

担当課	高校教育課 学校教育計画担当	T E L	0985-44-2601
氏 名	後藤 順一	F A X	0985-26-0721
職 名	指導主事	e-mail	goto-junichi@pref.miyazaki.lg.jp